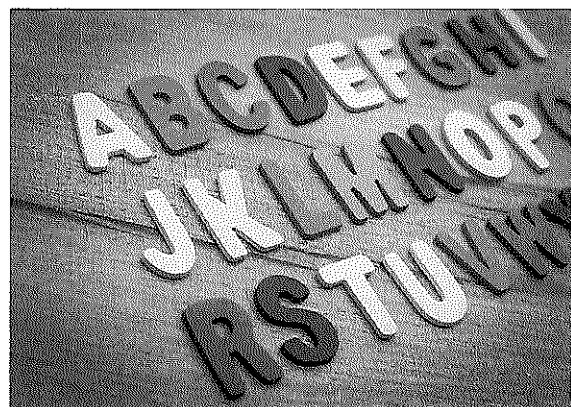
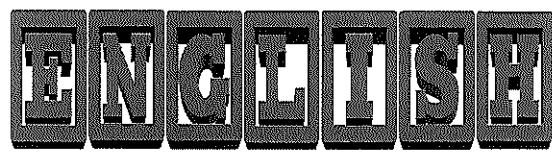


# 課題山積で急がれる整備

—さいたま市のGS（グローバル・スタディ）を考える—



国との整合性、人員配置など  
早急な解決を！

懸念される民間業者との関係

① 時間数が国のものより多く設定されている

（※国の標準基準は、小1・  
2なし、小3・4年35時間、  
5時間、小5・6年105時間）

市教委は「さいたま市は英語を習う児童が多いので小1からGSを導入する」と市民団体へ回答をしています。これは極めて説得力を欠くもので、市独自で進める小1からのGS導入の根拠にはな

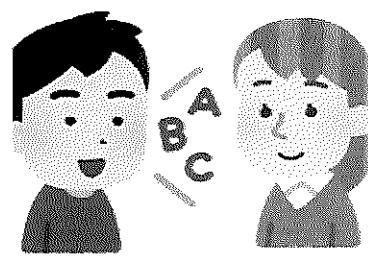
り得ません。何故小1からなのか、その他の学年で国を上回る授業時数にする必然性は何かを明確にすべきでしょうし、国と同数にするということとも検討すべきではないで

② 国と内容を合わせないのか

さいたま市では、国教科書（高学年）やテキスト（中学生）が導入された際は、高学年では教科書とGSテキストの併用、低中学年ではGSテキストを使用するとしています。現在文科省テキストで授業を行っている他市からは、文科省テキストだけでも時間内に終わらない、という声もあがっています。高学年で二つの内容を併用するとは、職場の多忙化とともにへの負担が増えることにつながっています。

また中学年GSテキス

現在のGSでは、英語教育とはあまり関係ない「探求」と称する事項が含まれており、GS専科や講師でなく、担任が指導することになつています。何を教えるのかが全く不明瞭で、指導する者にとって準備が間に合わず、混乱を招くものになつています。内容が不適切であるばかりか、授業時数増の一つの要因に



もなっています。「探求」の事項を削減し、国と同じ時数とすべきです。  
(以下2面に続く)

は、学習内容や難易度にねじれ生じていることも大きな問題です。そもそも、さいたま市のGSは、扱う語彙数、センテンス共に、作成した市教委も把握していないほど、根拠も系統性もありません。そのテキストにしがみつき使用を続けるのならば、現場の混乱は避けられません。

小さなのちを  
守れる職場に

## 体育代替講師措置

(小学校) 19学級の学校で2人以上の妊娠者がいる場合非常勤講師を配置。

(中学校) 体育科教諭が妊娠した場合、週13時間非常勤講師を措置。妊娠23週までは4週間に1回

## 妊娠の休息又は補食のための職専免

妊娠中の教職員が母子保護法に規定する保健指導または健康診査に基づく指導事項を守るために適宜、休息又は補食する場合、その都度必要と認める時間、職専免が取れる。

## 妊娠養護教諭対応非常勤講師配置

養護教諭が妊娠した時、繁忙期(4~6月)に母体保護のため非常勤講師が措置される。週25時間。養護教諭一人配置校に限定。

権利のことをおしゃべりしましょ  
シリーズ VOL. 4

さいたま市教職員組合女性部

## 「月一映画会」

どなたでも鑑賞できます

電車で痴漢に間違えられた青年が“裁判”で自分の無実を訴える姿を、日本の裁判制度の問題点を浮き彫りにしつつ描く、周防正行監督の本格的な社会派ドラマ。

## 「それでもボクはやってない」

監督・脚本 周防正行

(2時間24分)

4月27日(土) 10:00~

大宮教育会館 2F

(一面からの続き)

**(4) GS 専科が全校に配置されることはない**

市教育委員会は「GS 専科」

教員の配置を発表していますが、全校配置にはならないようです。小規模校には配置されないなどというわざもあり、配置する学校の優先基準が問題です。GS を市の教育の旗印としてきたのであれば、全校配置こそそれにふさわしい教育環境です。至急の配置を望相談です。

忘れ物をなくすことは大切な取り組みという形で一律に子どもを「さらしもの」こともあるからです。しかし、個人名で忘れ物をグラフ化し教室に常時掲示する。さらに、忘れ物を黙つていて他の生徒から指摘される「告発タイム」がある、としたらどうでしょう。これは保護者から寄せられた悩み・相談です。

保護者会で教室を訪れると、このグラフに人が集まり、話題となっていました。見ると、やはり忘れ物が突然出した生徒名に目が行ってしまふ。さらに忘れ物が4回続くと

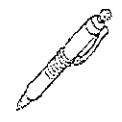
## 生徒同士で「告発」も



市内全教職員に配布されている「人権教育の指導資料」で、「提出物チェック表」を掲示している。項目があり、「いつになつてはいけないことの一つになっています」とあります。たとえ生徒からの自發的な取り組みといふ体裁を取つたとしても、人権侵害であることには変わりはありません。

市教組は訴えを重視し、教育委員会にこの問題を伝え、指導を要請したところ、さつと当該校の全ての教室で忘れ物グラフ撤去され、改善が図られました。これを保護者に伝えたところ、安堵の声が寄せられました。確かに安直な指導に陥ることはままあります。そなうならぬよう個々の実情を充分に把握し、生徒の人権に充分配慮するよう心がけていきたいものです。

みます。



されるか分からず入試問題の特性上、一教科増えるということになり、その教科で学習した全てを網羅し学習することになり、子どもにとっては大きな負担となります。特にGSの場合は、学習したセミナーが全てテキストに記載されているわけではなく（探究は事実上テキストも無く）、何が出来ます。未だ試験内容が公表されていません。受験生からは、「GSよりは難しかった」との声も寄せられており、GSとの整合性を検討することが急がれます。何が出題

さいたま市の全中2の生徒を対象にベネッセがGTECというテストを実施しました。このテスト結果を元にベネッセが「授業改善」と称する事後研修会を各校個別に行っています。一企業が公教育にここまで参入してよいのでしょうか。また先のGTECの受験料は市が全額負担（個人で受験すると5040円）しており、この他にも各学校に派遣されているITCサポート一代など、巨額

の費用がベネッセに投入されています。一企業と公共団体との関係で、利権に伴う問題が発生しないかが心配されます。

## ⑦ 教育長発言

【中学校英語教員の英語力は文科省目標値の半分】

でやる気は

できるか

教育長は11/29の「さいたま市『グローバル・スタディ』研究フォーラム」で、⑥で取り上げたGTECでの中2生徒の結果が「英検3級程度75・5%」(文科省の目標値は50%)とほめたたえ、対して「中学校英語教員の英語力は、28・8%(基準は50%)」。この数字をどう考えるか?」と

## 書籍紹介 「不死身の特攻兵」

鴻上尚史 講談社現代新書

「9回特攻に出撃つ課としての役割を果たしておらず、縦割り行政の弊害が現れた例として早急に改善すべきです。

当時の命令は絶対であり、逆らうなど不可能に近い。それができた理由に興味がわく。またこの本は特攻は敵に対しても脅威になつたのか、作戦として効果的であつたのかという特攻作戦の実態も明かしている。驚いたことに、エリート軍人は守られ、未熟な予備学生・予科練生が率先して送り出されたこと、「志願」という名の強制命令で「命令した側」の責任をあいまいにしたこと、その生徒を封じたということも告発している。つまり戦争の実態は「命令した側」である指導者の醜さに満ちあふれていると訴えた本である。